

●特集●学長一行が行く〜アフリカ南部訪問日誌〜

●特集●学長一行が行く〜アフリカ南部訪問日誌〜

# 学長一行が行く〜アフリカ南部訪問日誌〜

## ザンビア共和国、南アフリカ共和国へ行ってきました!

三重大学は、地域に根ざし、世界で活躍できるグローバル人財を育成するために、国際教育・国際共同研究を充実し、大学の国際化を図るとともに、地域社会との連携、世界各国の大学との国際交流を積極的に推進しています。

この夏、内田淳正学長、堀 浩樹理事(国際交流担当)、江原宏副学長(国際担当)ら一行がアフリカ南部のザンビア共和国のザンビア大学と南アフリカ共和国のステレンボッシュ大学を訪問しました。

### ザンビア大学

ザンビア共和国 2014.6.30—7.1

ザンビア共和国の首都ルサカ。アフリカというと、年中すごく暑い!というイメージを持つ方が多いかもしれませんが、訪れた時期はとても涼しく、快適でした。今回は、そのルサカにあるザンビア大学を訪問しました。ザンビア大学は学生数約10,000人の大学で、ザンビアの高等教育の中心です。三重大学とは2007年から医学部間の学部間協定を締結しています。滞在中は、医学部及び農学部にて意見交換や施設視察を行いました。すでに盛んに行われている医学分野での教育・研究連携の強化はもちろん、生物学分野における新たな連携に向けても話し合いが行われました。ザンビア大学と三重大学の連携発展に大きく貢献する訪問となりました。



### ステレンボッシュ大学

南アフリカ共和国 2014.7.4

南アフリカ共和国では、ケープタウンから車で1時間ほど東にいった所にあるステレンボッシュ大学を訪問しました。ステレンボッシュ大学は、学生数約28,000人で10学部・大学院を有します。授業では英語に加え、アフリカーンス語(南アフリカの公用語の1つ)が使用され、ヨーロッパとアフリカ、両方の雰囲気を持つ素敵な大学です。現在のところ、三重大学との協定は締結されていませんが、近日中に両大学間の連携が進み、学生交流・研究協力が盛んに行われることが期待されます。



私たちが随行しました!

池田真樹 財務部契約チーム職員

岡田亜由美 企画総務部総務チーム職員



### 人類のふるさとアフリカへ

三重大学長 内田 淳正 Uchida, Atsumasa

今回訪問したザンビア共和国、南アフリカ共和国はともに政治的、経済的に比較的安定した国ですが、それでも先進諸国とは比べものにならないぐらい貧富の差が激しいところです。貧民街での衛生状況は悪く、感染症や栄養失調の子供たちは多い。病気が慢性化する子供たちの背景にはエイズがあるといわれています。子供たちへの教育が最も重要ですが、それには時間が必要です。

ザンビア大学医学部の建物の一部は30年前にJICA\*の援助で完成しましたが、最近では日本の影も薄くなっています。それに変わって中国が前面に出てきています。他国への影響力は何を残すかではなく、文化の中に存在を示す継続性でしょう。

南アフリカ共和国のステレンボッシュ大学はワインとラグビーの大学。ケープタウンから東へ車で約1時間。南アフリカ最大のワイン生産地です。この大学の農学部にはワイン学科があり、ブドウ栽培や醸造の研究を通して地場産業にも大いに貢献しています。ワイン学科とは実に単純明快、わかりやすい。誰にでも何をしているかが理解できるし、三重大学にとっても絶好の連携先です。

プロゴルファー、アーニー・エルスがこの大学出身。彼のワイナリーがこの町にあり、その名もアーニーエルスワインズ。彼は「ワイン造りはゴルフのようだ。最後には自然が全てを決定づける」と語っています。

山崎豊子作の『沈まぬ太陽』の最後の文章「何一つ遮るもののないサバンナの地平線へ黄金の矢を放つアフリカの大きな夕陽は、荘厳な光に満ちている。それは不毛の日々に在った人間の心を慈しみ、明日を約束する、沈まぬ太陽であった。」今回の訪問で見たザンベジ川やサバンナに沈む巨大な夕陽はまさに人の心に勇気を与えてくれます。

\*独立行政法人 国際協力機構